

平成 26 年度 病虫害発生予察 特殊報 第 1 号

病虫害名： トマト茎えそ病（仮称）

病 原： キク茎えそウイルス *Chrysanthemum stem necrosis virus* (C S N V)

対 象： トマト

1．特殊報の内容

トマト茎えそ病（仮称）の発生を都内で初めて確認した。

2．発生経過

- (1) 2014 年 6 月、都内多摩地域の雨よけハウストマトにおいて、茎、葉、果実にあそ、黄化などの症状を呈する株が発生した。
- (2) 発症株を対象として、キュウリモザイクウイルス(C M V)、トマト黄化えそウイルス(T S W V)、トマトモザイクウイルス(T o M V)等を E L I S A 法で検定し、トマト黄化葉巻ウイルス(T Y L C V)を P C R 法により検定した結果、陰性であった。そこで法政大学植物医科学センターに診断を依頼したところ、キク茎えそウイルス(C S N V)によるトマト茎えそ病（仮称）であることが確認された。
- (3) 現在までに、発生が確認されているのは 1 ほ場のみである。
- (4) 現在のところ、本ウイルスのトマトでの国内における発生は、群馬県、千葉県など 5 県で報告されているが、都内における発生は初確認である。

3．病徴

本ウイルスによる病徴は、茎葉や葉柄のえそ、黄化、褐変、果実の着色不良、えそ、変形、成長点付近のえそ、萎縮、褐変であり、トマト黄化えそウイルス(T S W V)によるトマト黄化えそ病と酷似する(図 1)。

4．病原ウイルスの諸性質

- (1) 本病はウイルスを保毒したミカンキイロアザミウマによって媒介され、一度ウイルスを獲得すると死ぬまでウイルスを伝搬する(永続伝搬)。ミカンキイロアザミウマは野菜類、花き類、果樹類に広く寄生する。
- (2) 国内ではトマト以外にキク、トルコギキョウ、アスター、ピーマンで発生が確認されており、特にキクは現在までに 26 県で発生が報告されている。

5．防除対策および注意点

- (1) 発病株は抜き取り、土中に埋却するか焼却するなど適切に処分する。
- (2) 防除指針を参考に、媒介虫であるミカンキイロアザミウマの防除を徹底する。

(3) ほ場及び周辺部の除草等、ほ場衛生に努める。

(4) 施設栽培の場合、ミカンキイロアザミウマ対策として、ハウス開口部へ防虫ネット(0.4mm目合い以下)の展張、及びハウス外張り資材として近紫外線カットフィルムを展張することも有効である。



図1 トマトの葉枯れ症状



図2 トマトの茎のえそ症状